



2019年度

ゆたかっこ

夢や希望に向かってはばたき 確かに学び 体をきたえる ゆたかっこ

学校だより 5月号

豊見城市立ゆたか小学校
豊見城市字豊見城 601 番地 1
TEL850-6639 FAX850-3940
校長 宮平 やすみ

参加率 92% 日曜授業参観ありがとうございます

今年度第1回目の授業参観となる日曜参観日は、多くの保護者や地域の皆様に参加していただきました。メールでお願いしたとおり親子で徒歩登下校する姿が多く見られ、何より子ども達の嬉しそうな顔が印象的でした。子供といっしょに歩きながら通学路の安全確認をしていただいたかと思いますが、この時期は最も登下校時の交通事故が多い時期でもありますので、引き続き交通安全については注意をお願いします。

今年度は、学級保護者会も同日に実施し、学級や学年経営の説明を聞いていただけたこと、そして学校教育説明会に予想を上回る約160名の参加者に、改めて学校への期待と信頼に応えられるように頑張らなくてはならないという気持ちになりました。温かい励ましの言葉もいただき、教職員一同、精一杯子ども達の成長を応援して参ります。



学級保護者会



今年の2倍！
約160名参加



学校教育説明会

学校経営方針説明、学力向上、体力向上の取組
2月の実践報告会で成果を発表します。

日々の教育活動に発見と感動を！



クラウンコトラさん
の楽しいパフォーマンスに大喜び！





令和元年度 学校評議委員の紹介

- 小美野純一 (PTA代表)
- 津森義弘 (区長・地域代表)
- 大田正樹 (小中・地域連携)
- 金城 努 (園長・保幼こ小連携)
- 宮城伸子 (学識経験者)



登下校！毎朝、発見がいっぱい！

毎朝、登校中にいろいろな虫を見つけて、見せてくれる4年生の洲鎌こうきさん。カミキリムシ、ナナフシ、ゾウムシ、私の知らない虫もいっぱい。写真の虫は「ホタルの幼虫」だそうです。沖縄本島のホタルは「陸生」なんだって！ゆたか小のファープルですね。

感想・ご意見をありがとうございます。

- いつも丁寧な言葉でわかりやすくはっきりとした口調でご指導頂けていることに感謝しています。
 - 今日はいいお話が聞けてよかったです。子ども達もこのクラスでのびのびできていると思います。
 - 先生の人柄や一生懸命さが子ども達に伝わっていると感じました。子ども達もお互いを認め合っているような雰囲気を感じました。身体にお気をつけて今後もよろしくお願いします。
 - 学年、学級会が素晴らしかったです。先生方が熱心に子ども達に向き合って成長を望んでくださっていることが伝わり感激しました。家庭訪問と保護者会、2回続けて仕事を休めないで、日曜参観と組み合わせていただけて参加しやすかったです。
 - 授業参観に参加して、先生の説明がわかりやすくてとてもよかったです。グループでの話し合いの場を設けてあり、子ども達の意見をしっかり言える場をつくってもらい、いい環境づくりだと思います。
 - 学校説明会は、いつもより人が多くて、マイクの音がわれたり、スライドももう少し大きい方が見やすくてよかったですと思います。
- ありがとうございます。学校も同意見でした。次回は改善したいと思います。

校長講話「言葉のちから」

5月15日の校長講話のテーマは「言葉のちから」でした。古来、日本では「言霊」といって、言葉には魂が宿ると考えられ、言葉を大切に用いてきたというお話です。各学級でも「言葉のちから」について考えてみました。

3年3組 新垣 こうた

スーパーボールおくりで、ゆうしさんに「がんばれ」と言われてうれしかったです。だから、ゆうしさんみたいに「ふわふわ言葉」をつかっていきたいです。かつひろさんが、こうたのことをさんづけしてくれてうれしかったです。ぼくもかつひろさんみたいに、みんなにさんづけをしたいです。

3年4組 安室 利娃奈

ゲームをやって、みんなしっばいしていたけれど、「すごいね」とか「がんばろう」とか言われたのでゲームを楽しめました。わたしはふわふわ言葉ってすごいなと思いました。ゲームをやる時、みんなにここへこえがおだったので、わたしは、「みんなも楽しいんだ。」と思いました。

子育ての部屋「耳ぐすい(耳薬)」

このコーナーでは、様々な教育書の中から子育てのヒントになりそうな情報を一部分で紹介いたします。私が勝手に選んだ情報ですので、参考にいただくかは皆様の判断にお任せします。ちょっとしたヒント「耳ぐすい」になれれば〜と思います。

「遊び」は、好きな時に「もうやめた」と言って立ち去ることが許されます。その自由が「遊び」の性質です。ところが「仕事」は、めんどろになったからといって「やーめた」と立ち去ることは許されません。投げ出したいときに、全力を尽くして乗り越えるのが「仕事」です。子供が内面から良い方向へ変わるのには、「自分の意思で始めた」ことを「持続して」行い、途中で投げ出さないで「全力を尽くして乗り越えて」、「わかった」とか「できた」とかいう実感を味わったときです。その時、子供の内面から生きる喜びや自尊感情が湧いてくるのです。

子供は本当は「遊び」よりも自分を成長させる「仕事」の方が好きなのです。だから、子供が生きる喜びでいっぱいになる「仕事」をすることができる状況をつくってやるのが大人の役割です。つまり「環境を整える」そして「やり方をして見せる」のです。「環境を整える」には、道具が子供のサイズであるとか、知性を働かせることができるとか、様々な配慮が必要です。・・・

「親子が輝くモンテッソーリの言葉 21の言葉のメッセージ」(相良敦子) 河出文庫より